

ヒマラヤと貧しさと人々と

文
写真 三浦素子 (総合科学部4年)
Miura, Motoko



ネパールがどんな国か皆さんご存知だろうか。正直言って私自身あの国のイメージといえば、「ヒマラヤのある国」という実に貧弱なものだった。一生に一度くらい神々の山を見てみたいと思っていたし、教授やゼミの先輩も一緒なので海外初心者マークの私でも安心である。完全に観光気分ネパールへと向かった。当初はとりあえずヒマラヤを見るのが一番の楽しみであったと思う。

そのヒマラヤは凄かった。自称ガイドの少年が何度も「You are lucky」と言う通り、雲も少ない晴天の空に映える白き峰々。あまりに現実感のないその光景に写真みたいだなあ、という間抜けな感想しか浮かばないのが情けない。啞然とする私のそばで、なおも少年が「very beautifulネ」とまくしたてる。

彼らは帰ろうとする我々にガイド料としてRs.2(約四円)を請求してきた。現地を案内して下さったり、何かとお世話になった青年海外協力隊の小林花さんによると、彼らにお金をあげるのはよくないとのこと。癖になつてしまい、学校にますます行かなくなつてしまふそうである。さもありなん、飴をあげることにする。子供がモノや小銭を求めて寄ってくるのは、観光スポットでは日常的風景である。何もあげずに無視するのが当然なのかもしれないが、その瞳は目が合うと逸らせなくなるほどひたむきで、それに負けてしまう人はいない。飴やガムをあげてしまうことになる。観光地では、こういった子供たちや憑かれたように「三つで千円、千円」と繰り返す土産物売りのおばさんたちがあふれているのだが、一般的に言ってネパールの人たちは親切で、特に女性は奥ゆかしい性格のようである。

首都カトマンズからヒマラヤの見える町ポカラへの道すがら(車で実に七時間)、どうしてもトイレに行きたくなった私に、快くトイレを貸してくれた雑貨屋の奥さん。ネパールの公衆トイレは有料なので、お礼にと差し出した僅かなお金をどうしても受け取つてくれなかった。

カトマンズで一緒に写真を撮つたチャイ(ミルクで煮込んだ紅茶)の屋台の娘さんとその小さな妹。あんまり可愛いので写真を撮ろうと言うと、非常に恥ずかしがってはにこんだ笑顔を見せてくれた。

モウジャ村のお母さん。モウジャはJICAの森林保全プロジェクトの対象地域であり、小林花さんの赴任地でもある。訪問者の私たちにおいしいダルバード(ネパールの食事でカレー味の野菜とご飯と豆のスープ)をご馳走して下さいました。

しかしどの女性も英語は通じなかった。観光客向けの店や大都市の商店では英語が通じるのだが、農村部や首都カトマンズでも少しはずれた裏通りではほとんど通じない。

女性の識字率は非常に低い国であるから、英語が話せないのは当然かも知れない。恥ずかしがり屋の少女は、学校にあまり行かず店を手伝っているようであった。その店に案内してくれたチベット人の青年に、「なぜ彼女は学校に行かないのか」と聞いても彼は意味がよくわからなかつたらしく(私の英会話能力の未熟さのせいかも知れないが)答えてはくれなかつた。もつとも彼はそんなことよりも、私が友人たちを彼の兄の経営する土産物屋に連れて再び現れるかどうか、あるいは何かという奨学金に寄付してくれるかどうか

が気になっていったようだ。

学校はもう卒業したと言い、学生時代使っていたというノートまで見せてくれたが、写真を送るので住所を英語で書いてくれと頼むと途端に後込みをする。どうやら彼も英語は話せても書くことはできなかったようである。彼の妹も弟も学校に行っていない。

兄を頼り、チベットに父母を残してネパールに移住してきたと言っていた。彼のアパートは螺旋階段が歪んでおり、ゴミの堆積する空き地の隣にある。そのアパートの、ソファ一つしか入らない部屋に兄弟と住んでいる彼は、帰国間際でお金がない私にチャイをおごつてくれた。結局何も買わず寄付もしなかつた私は、心苦しかった。彼らはどうしているだろうか。やはりダルバル広場で、私のような観光客を相手に客引きをしているのだろうか。

今思えば、旅行前は旅行に行く意味を分かっていたなかつたように思う。加えて同行した教授やゼミの先輩が実に頼り甲斐があつたため、他力本願的な気分旅に出たような気もある。実際出発前のネパールについての情報収集は不十分だったし、とりあえずヒマラヤが拝めれば満足するだろうかとか考えていなかった。自分と全く異なる人たちに出会うのも、お互いに怪しい英語で意思の疎通を試みるのも初めての経験で、今までの自分自身と自分ととりまく環境を省みる契機にもなつた。排気ガスとゴミと埃が舞うカトマンズ、神々の山と湖を背景にウシが闊歩するポカラ…、もつと長く滞在できれば良かったのだが、ネパールは異国を旅する面白さを教えてくれたと思う。